

カキの病害虫―I

お先にいただきます!

木村 裕

カキノキを庭や畑に植えている方も多いことでしょう。果実がたくさん成る年もあれば、不作でがっかりする年もありますね。

カキの実が落ちる原因は、カキの木が少し実をつけすぎた、これでは自分にとっては負担が大き過ぎると反省したとき、果実を振るい落とすのが生理落下ですが、もう一つの原因は果実を狙う害虫の活躍です。

【カキノヘタムシガ(カキミガ)】

カキのもっとも重要な害虫です。果実のへたの近くから蛾の幼虫が孔をあけて中に食い込み、内部を食い荒らします。そのため、果皮は褐色になって中空となり、やがて落下します。虫は果実内部に潜んでいるので防除はなかなか難しいです。被害果を見つけたときは早めに切り取って処分しましょう。

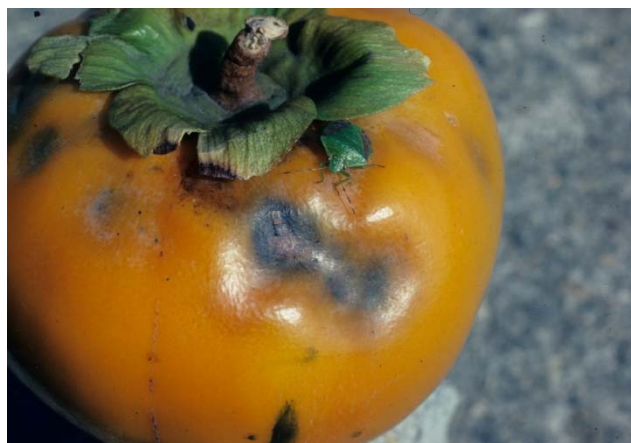


【カメムシ類】

収穫した果実の表面が黒くポコポコと凹んでいます。それゆえ見た目が非常に悪くなり、商品価値が大幅に下がります。自家用なら問題はないかと思いますが、味の点については保証しかねます。

原因はカメムシのおばさんやおじさんがお先に味見をしたせいです。まだ熟していない果実に口ばしを刺し込んで汁を吸ったため、その

部分は凹んでスポンジ状になります。また、小さな果実では早々に落下します。主犯は緑色のチャバネアオカメムシですが、暗褐色のクサギカメムシ、アオクサカメムシなどのカメムシも共犯です。幼虫はいろいろな樹で生育し、カキの実が少し大きくなった頃を狙って成虫がやってきます。



果実被害とチャバネアオカメムシ

【クロトンアザミウマ】

2016年にならやまのベースキャンプ横のカキで発生した害虫です。色づいた果皮がうす黒く汚れました。初めて見る症状のため、何か病気が発生したものかと思って調べたところ、葉の裏に非常に小さな白っぽい虫が見つかりました。肉眼ではちょっと見つけにくいかも。細長い虫で、口吻で葉や果皮を傷つけてしみ出す汁をすするので、その傷跡が黒っぽい汚れとなって残った次第です。



アザミウマはあまり馴染みのない虫ですが、ナスやキュウリの大害虫です。そのため農家の方は防除対策に頭を痛めています。